

3学年だより

小平市立小平第二中学校
第3学年 学年だより
第28号
令和5年10月27日(金)

「修学旅行で学んだこと」

C組 高梨 果凛

人生で一度の修学旅行。そこで私はたくさんものを得ることができました。一つは思い出です。京都や奈良でたくさんの綺麗な場所を見ることができたというのがありますが、私は人と人の触れ合いでの思い出が多いです。たまたま入った店でお店の人と話せたこと、タクシーの運転手さんと話したこと、宿舎で友達と遊んだりふざげ合ったりしたこと、電車でたまたま先生とお話できたこと……。どれも良い思い出です。この時間が続けばいいのにとったり、この人と別れるのが辛いなとしたりしましたが、一つ一つの出会いを大切にすることについてよく学べた気がします。

二つ目は、日本の文化を大切にすることです。三日間にわたって京都や奈良の名所を巡ってきましたが、やはり実際に見てみるとその場所の美しさや歴史を今までの倍以上に感じました。特に銀閣寺では、タクシーの運転手の方から、この寺が銀閣寺と呼ばれるのは、昔黒漆だった際、夜に月尾光で向月台が反射してうつり銀色に見えていたから、という話を聞いた時はとても感動したのを覚えています。こうやって美しさを感じたり触れ合ったりすることができるのは、昔の人たちが今になるまで大切に守ってきたからだし、これからの世代にもつなげていくには、私たちがその地を守っていかないといけないんだなと思いました。

まだたくさん書きたいことがあるくらい、とても充実した三日間だったと思います。本当に本当にいい思い出だし、これから何年経っても忘れることはないと思います。こんないい思い出になったのもたくさんの人たちが支えてくださったからなので、その感謝を忘れないようにしようと思いました。この修学旅行で得ることができたものをこれから先の人生にしっかり活かしていきたいなと思います。

「合唱コンクールを終えて」

C組 小松えり

今年の合唱コンクールは、私にとって最高の合唱コンクールでした。今年までの2年間は、元々つられやすいアルトが、頑張っても自分の声だけがクラスの歌唱から逸脱しているように聞こえ、自分の声がクラスのハーモニーを壊しているのではないかと感じてしまい、歌っても小さい声を出すので精一杯でした。今年もそうなるのだらうと思っていました。しかし、今年は違いました。相変わらずアルトはソプラノやテノールにつられてしまし、他よりも全然ピアノの音に合っていない音程だし、三年生となり、クラス曲も前年より難しくなっているのに、難しいとか恥ずかしいという心境より、楽しいという心境の方が勝ったのです。

自分の心身ともに成長できたことによる心の変化かなとも思いましたが、それだけではなく、私はこのクラスの仲間の力が大きかったのだと思います。夏休みが終わりあと4週間程で合唱コンクール。本格的にクラスだけの練習になったとき、同じアルトの人の声に音程を合わせることができて、救われました。

実行委員さんの、アドバイスと褒め言葉に自分がハーモニーを乱しているのではないかと不安から救われました。先生と一緒に歌ってくださったことで、自分自身にも勇気とやる気がつきました。私は気づかないうちに、他のクラスの仲間に勇気ももらっていました。本番は大勢の人達に見られる、そう思うとやはりまだ恥ずかしいという気持ちも残っていました。

コンクール当日、私は他のクラスの発表を聞いて胸が高鳴った気がしました。私もクラスの皆と頑張った歌をこのホールに響かせたいと思いました。本番程緊張したものではなく、声を少しでも大きくして、できるだけアルトの音程を信じて歌い、今まで以上の出来になったと思います。最後のコンクール楽しかったです。